



- カーマル市民との交流会
- 夏休み子ども絵画教室
- 生活マナー講座
- ゆかたで盆踊り
- 夜店の夕べ

- 国際料理教室～日本編～
- ゴギ ザザ ギア 来日 20 周年記念コンサート
- コンニチハ！日本語サロンです
- 知ろう！やってみようコミュニティ通訳・翻訳



## 姉妹都市カーメル市民との交流会 2016



隔年でお迎えしているカーメル市民の皆さんとの交流会が開催されました。今年はカーメル側から44名、河内長野側もスタッフを含め同じくらいの方が参加し、真夏の日を楽しく過ごしました。

カーメルのPTO（日本ではPTA）の方のあいさつは、カーメルの方が日本語で通訳してくださいました。また、学生のスピーチもきれいな日本語で、とてもよくわかりました。

今年は折紙ボランティアの梶村さん、高繁さん、上山さんの3人に講師をしていただきました。参加者全員が、ちょっとむずかしい折り方の「兜」と「コマ」を特大サイズの紙を使って、ステップごとに教えていただきました。会場にいる日本人もほとんど経験のない題材で、みな講師の説明に熱心に耳を傾け、手を動かしていました。カーメルの高校生の中にも、日本人に負けずに器用な人や、いち早く要点を飲みこんだ日本人の皆さんなどが、他の人達に教えてあげたり、教えてもらったり、全員が最後までやり遂げました。3つのピースを組み合わせて作るコマは、とても良く回りますし、複雑な折り方の兜は仕上がりが美しく、テーブルや暖炉の上の飾りにいいね、といずれも好評でした。コマ回しチャンピオン大会では、各テーブルの勝者が出揃って、どのコマが一番長く回っているか競いました。チャンピオンは日本人の学生さんでした。

休憩時には、会員提供のイチゴを使ったイチゴシェークが大好評。おかわりをする人もいて、スタッフは準備の甲斐がありました。

最後に、カーメルの皆さんにひとりひとり感想をお聞きしました。「折紙は難しかったけれど、大好きです」というコメントがほとんどで講師の皆さんも嬉しそうでした。大人数で取り組んだ今年の折紙体験は、日本とアメリカの文化交流にささやかながら楽しい1ページを付け加えることができました。



よく回る折紙のコマ

# 夏休み子ども絵画教室

8月2日 市民交流センター 創作工房

NPO 法人アートコミュニティの船本清司先生、礼子先生、大輔先生のご指導で、姉妹都市子ども絵画展へむけて、絵画教室が開催され、25名の小学生が参加しました。

今年のテーマは「日本の昔話」。あらためて昔話に向き合うことで、故郷の良さ、郷土愛を実感し、それをアメリカの子どもたちに伝えていこうという取り組みです。

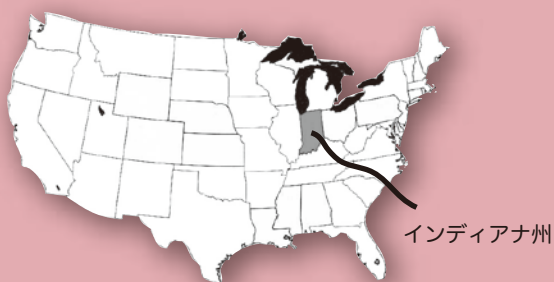
最初にスライドショーで姉妹都市の位置や様子の紹介がありました。もうすぐ姉妹都市交流 25 周年を迎えるカーメル市は五大湖のすぐ南、インディアナ州のほぼ中央にあります。「アメリカで最も住みやすい都市」として表彰されたこともある、小さいけれども美しい街並みです。「今日は、その街の中心にある、ギネスブック認定の『世界一小さな子ども美術館』に展示される絵を作成します」という言葉で、参加している子どもたちのモチベーションも高まります。昔話についての簡単な英語の表現も習いました。

参加者は、墨、ポスカ、水彩絵の具それぞれで描き始める3つのグループに別れました。画材ごとの違った趣を確かめながら、描いていきます。途中で講師のアドバイスを受けながら、絵が仕上がっていきませんが、「端まできちんと塗る」「さびしい部分にもう少し色を入れる」「\*メディウムを使って質感を変える」などのヒントで絵がどんどん完成していくのは、見ていて楽しい工程でした。夕方には、それぞれの絵が、子どもたちの思いのこもった力作に仕上がりました。

当日制作した絵と、公募への応募作品はカーメル市に送られ、前述の美術館やカーメル国際アートフェスティバル会場などで展示されます。カーメル市からも届く子どもたちの絵は、河内長野の子どもたちの作品とともに市内各地で展示されます。子どもたちの絵を通じて、文化の違いや共通点を知る機会になることを願っています。

\*メディウム：絵の具に混ぜて質感などをだしたりする画材の一種

- 11月20日(日)~26日(土) 午前中まで 市民交流センター1F
  - 1月27日(金)~2月3日(金) 市役所1F市民サロン
- ※ぜひ、お越しください！



## 姉妹都市交流の歩み

1994年にアメリカ インディアナ州のカーメル市と河内長野市とで姉妹都市提携調印が行われました。

その後、

- ・子ども絵画交換
  - ・カーメル国際アートフェスティバルへの参加
  - ・消防・警察職員の相互訪問
  - ・カーメル市民との交流会
  - ・数寄屋門と灯籠の寄贈
  - ・カーメル日本庭園竣工式参加
  - ・姉妹都市提携 15 周年記念式典参加
  - ・インディアナ州ステート・フェア参加
  - ・姉妹都市提携 20 周年記念式典参加
- など、様々な交流を行っています。



姉妹都市  
子ども絵画展



## 生活マナー講座

6月18日、7月9日 市民交流センター 和室



今年も多文化共生活動事業部の池田マリアさんを講師に迎え、生活マナー講座が、6月18日(土)と7月9日(土)の2日間に亘ってキックスの和室で開催されました。

外国出身の方が、日本で生活していく上で必要になる生活のマナーについて教えていただきました。一般的な和室でのマナーから始まり、公共のマナー、冠婚葬祭のマナー、贈答のマナーから、お見舞いのマナーまで多岐にわたってのお話でした。参加された中国、韓国、タイ、フィリピン、マレーシア、インドネシアなどの国の出身の方々は熱心に聴いておられ、実際に自分が経験した日本のマナーの疑問についての質問も活発に出てきました。

講師が半ば冗談で言われた「床の間は舞台ではないので踊ったりしてはいけませんよ」という話にウンウンとうなずいておられた方も何人か…さては、やっちゃったかな?

みっちり教えていただいたおかげで、皆さん、勉強不足の日本人より日本通になったかもしれませんね。

## ゆかたで盆踊り LET'S TRY BON DANCE!

7月23日 市民交流センター 和室、野作公園

「ゆかたで盆踊り」のイベントが開催されました。キックスの和室でゆかたの着付けの実習をして簡単な盆踊りの練習をしました。外国人男性の参加もあり、日本のゆかたに大満足の様子。下駄が気に入った方も多かったですが、いざ履いて歩くとなると結構苦勞をされていました。

そのあと、ゆかた姿で、野作公園の盆踊りに参加しました。人の多さに圧倒されてか、中々踊りの輪には入れませんでした。露店巡りもして、日本情緒を楽しみました。



## 夜店の夕べ



はじめて河内長野商店街の「夜店のゆうべ」に参加し、KIFAは棒付きウインナーを販売しました。

大勢の人々で賑わう通り。お孫さんの喜ぶ顔に目じりをさげて、財布の紐を緩めるおじいちゃんやおばあちゃん。赤ちゃん連れの若いご夫婦や、クラブ

や塾帰りの中高生たち…そして企業の研修生として河内長野在住の外国人も日本の夏の風物詩を地域の人たちと楽しんでいました。テントの中では新旧スタッフと外国人がみんな混じってワイワイガヤガヤ。「来年は国際交流協会らしく、珍しい外国のおやつを出そう！」そんな意見も飛び出しました。



7月30日 河内長野駅前商店街



## 国際料理教室 ～日本編～

8月27日 市民交流センター 食工房



河内長野市文化連盟前会長の木之下純子氏（左写真）を講師に迎え、国際料理教室が開催されました。今回は外国人のみなさんに、日本の家庭料理の基礎を習得してもらおうと

いうことで、日本料理に挑戦して頂きました。

中国、インドネシア、フィリピン出身の方々に加えて、日本から男性の参加もあり、エコ・クッキングの活動をしておられる、地球号クッキンググループの皆さんにお手伝いいただき、本格的な「だし」の取り方から始まっている日本の家庭料理を作りました。メニューは、おでん、五色なます、おにぎり、味噌汁、豆腐白玉団子（デザート）とボリュームたっぷり。皆さん、楽しく和やかに、エコ・クッキングの名前の通り、食材は捨てるどころの無いように全部使い切りました。

限られた時間内での調理でしたので、煮込みに時間のかかるおでんは大丈夫かとちょっと心配しましたが、ここで登場したのが「ほっとく鍋」。最初に作ったおでんの入った鍋を、新聞紙と厚手の布で覆っておくだけなのですが、ほかの料理が出来上がるころには、大根やゆで卵が、いい具合に色づいて煮込まれていました。

皆さんが意外に苦労したのが、おにぎりです。「形は自由でいいですが、必ずひとつは三角おにぎりを」という講師のリクエストに悪戦苦闘でしたが、スタッフのアドバイスでなんとか三角おにぎりが完成しました。おにぎりの具には、用意された

梅干しなどのほかに、だしをとるのに使った鰹節や昆布を使って作った佃煮もしっかり入れました。

初めてこんにゃくや豆腐を使った料理をした方もいましたが出来上がった料理のお味も好評でした。男性の参加者からは、「お母さんや奥さんのありがたみがわかった」という女性にはうれしい感想もありました。



ほっとく鍋

# ゴギ ザザ ギア 来日 20 周年記念コンサート



～河内長野に舞い降りた三人のサムライ～

8月20日 ラブリーホール

20 年前、グルジアという聞きなれない国から日本の河内長野に音楽家がやってきました。ギオルギ・バプアゼ（愛称：ゴギ）、ザザ・ゴグア、ギア・ケオシビリ（故人）の3人です。

日本全国に20数人しかグルジア人がいなかったのに、河内長野にはその半数が住んでいたのです。子どもたちは小学校、中学校に通い母国語を忘れるくらい日本語が上達し、友達もたくさん出来ました。

あれから20年がたち、グルジアからジョージアに国名も変わり、支えてくださった人々や友人を迎えて、彼らの縁の深いラブリーホールにてメモリアルコンサートを開くことが出来ました。

猛暑の中でしたが、ラブリーホールはジョージア色に染まりました。演奏者もジョージア人のゴギさん、ザザさん、ルーマニア人のチップさん、モスクワやウィーンに留学中の故ギアさんのお弟子さんと国際色豊かです。

1部はブラームス、モーツァルトやジョージアの曲が次々と演奏されお客様も熱心に聴いて、大きな拍手も下さいました。

2部はジョージアの歌曲や日本民謡、また地元で活躍している女声合唱団のピアチェルも友情出演して、アンサンブルと合同でジョージア民謡「スリコ」、モーツァルト「アヴェヴェルムコルプス」、日本の曲「ふるさと」できれいなハーモニーを響かせました。また東京のジョージア大使館から、ピクリア・ゲギゼ大使代理ご夫妻も駆けつけて舞台挨拶していただきました。河内長野とジョージアの20年に亘る深い縁と絆に感激されていました。若くて美しい女性の大使代理が登場されたので、会場は大いに盛り上がりました。

フィナーレは「ふるさと」を全員で歌い会場がひとつになり、温かい空気に包まれたコンサートでした。



## ●日本語サロン スケジュール

月	曜日	日曜 Sun.	火曜 Tue.	木曜 Thu.
10月	Oct	2・16・23・30	4・11・18・25	6・13・20・27
11月	Nov	6・13・27	1・8・15・22	10・17・24
12月	Dec	4・11・18	6・13・20	1・8・15

<開講場所と時間>

日曜日 Sundays 14:00～16:00

千代田公民館 2階

火曜日 Tuesdays 10:00～11:45

市民交流センター(KICCS)3階

木曜日 Thursdays 18:00～20:00

ノバティ南館3階 ノバティホール

## ●語学クラブ スケジュール



コース	英語 フリー トーキング	英語 (中級)	英語 (初級)	スペイン語 (初級)	
時間	14:00～15:30	19:00～20:30	19:00～20:30	19:00～20:30	
開講日	10月	8	11・25	4・18	7・21
	11月	12	8・22	1・15	4・18
	12月	10	13・27	6・20	2・16

## ■日本語ボランティア・ブラッシュアップ講座

地域の日本語ボランティア活動に関心のある方や既に活動中の方を対象に多文化共生社会の現状と外国人への日本語指導に関する知識と技能を講演と講義(全6回)で学びます。

- 日時：①10月22日(土) 14:00~16:00  
 ②11月5日(土) 19:00~20:30  
 ③11月20日(日) 14:00~15:30  
 ④12月3日(土) 19:00~20:30  
 ⑤1月21日(土) 14:00~15:30  
 ⑥2月18日(土) 14:00~15:30

場所：市民交流センター

募集人数：50名(先着順)

受講料：会員1,000円、一般2,000円(全6回分)

申込み：10月5日から10月15日まで

電話かメールで事務局まで



## ■インドネシアな1日 INDONESIA DAY

バリ島をはじめとする、17,000以上の島から成る国、インドネシア。この国のことを、もっと知ってみませんか？まずは、観る、話すからはじめ、買って、食べて、楽しみながらインドネシア文化に親しみましょう。

日時：10月16日(日) 12:00~16:00  
 (販売はオープニング終了後開始)

場所：市民交流センター  
 4階 イベントホール

入場料：無料  
 (ブースでの購入には別途チケットが必要)

共催：AZARIA Technology Indonesia PT  
 後援：河内長野市、河内長野市教育委員会、河内長野市文化連盟、在大阪インドネシア共和国総領事館、インドネシア貿易振興センター  
 協賛：ガルーダインドネシア航空会社大阪

## ■日本語サロン 日曜日、木曜日スタッフ募集!

地域在住の外国人の方にボランティアで日本語学習のサポートをしてくださる方を募集します。

応募資格：

\*河内長野市国際交流協会主催の「日本語ボランティア講座」または他機関で日本語教育に関する講座を受講した経験のある成人の方。

\*日曜日 14:00~16:00 のクラス(場所：千代田公民館)、  
 又は、木曜日 18:00~20:00 のクラス(場所：ノバティホール3F)に毎週参加できる方。

募集人員：若干名。応募者多数の場合は抽選。但し、選外となった方は待機スタッフとして登録され(1年間有効)欠員に応じて参加可。

応募締め切り日：10月21日(金)

応募方法：電話、又はメールで事務局へ。住所、氏名、電話番号、参加希望曜日と受講終了講座名または機関名をお伝えください。

\*サロンの見学もできます。

(事前に事務局にお問い合わせください)

日本語学習サポートに興味と熱意のある方、大歓迎です。

## ■フィリピン民族舞踊団

フィリピンのレトラン学院のダンスチームが12月10日から18日まで河内長野を訪れ、学校訪問や市民との交流をします。ホストファミリーも募集の予定です。



## ■事務局の定休日が変わりました

2016年8月より、日曜日、祝日、月曜日は事務局はお休みです。  
 (イベント開催などの場合はのぞきます)

初めまして!



新しく事務局に入った  
 國田宏恵さんです。  
 みなさん、よろしく  
 お願いします。

### ■問い合わせ・申込み

河内長野市国際交流協会(KIFA)  
 事務局  
 〒586-0025 河内長野市昭栄町7-1  
 市民交流センター(キックス)3階  
 TEL: (0721)54-0002  
 FAX: (0721)54-0004  
 Eメール: office@kifa-web.jp

コース	中国語 (初級)	中国語 (入門)	韓国語 (中級)	韓国語 (初級)	韓国語 (入門)
時間	19:00~20:30	19:00~20:30	13:00~14:30	10:40~12:10	15:00~16:30
開講日	10月	7・21	14・28	12・26	12・26
	11月	4・18	11・25	9・30	9・30
	12月	2・16	9・23	14・28	14・28

# もっと日本のことを知りたいです

リン イジェン  
林 怡君(台湾)



大家好!皆さんこんにちは。私は林 怡君(リン イ ジェン)と申します。台湾の嘉義から来ました。婚約者が日本に住んでいるので、2015年8月に日本に来て、2か月間旅行しながら日本語を勉強しました。日本に来る前に台湾でよく日本の四季の景色や芸術文化などを見て、本当にきれいな国だと思いました。8月に日本に来て、大阪の花火大会に行ったり、四国に遊びに行ったり、日本料理をたくさん食べたりしました。とても楽しかったです。でもその時は日本語がとても下手でしたので、彼の紹介で毎週火、

木、日曜日の日本語サロンに通いました。先生に日本語や日本の生活のことを教えていただきました。先生は皆親切な人で、本当に充実した旅行になりました。その後台湾に帰って、日本のワーキングホリデービザをもらって、2015年11月に日本にもう一度来ました。

今回も日本に来て、初めての経験をたくさんしました。例えばたくさんの紅葉と桜を見ました。本当に綺麗でした。写真もいっぱい撮りました。やはり日本の紅葉と桜は有名なんですね。台湾より日本の冬は寒かったです。私は初めて滋賀県でスキーをしました。そして初めて降っている雪を見ました。ずっと興奮状態でした。でもとても寒いので足の指が霜焼けになってしまいました。ちょっと気持ち悪いですが面白い経験でした。それから日本の四季はテレビで見るよりもっと綺麗でした。

今は日本語がもっと上手になりたいので、日本語学校で日本語を勉強しています。時間があれば日曜日の日本語サロンにも通っています。それで今少し日本語が話せるようになりました。

日本語の文法の丁寧形、助詞の使い方がちょっと難しいですが、でももっと日本のことを知りたいので、これからも日本語の勉強を続けて頑張ります。

たすけあい広場

## 知ろう! やってみよう コミュニティ通訳・翻訳

8月27日 市民交流センター 大会議室

講師に NPO 法人多言語センター FACIL 代表の吉富志津代氏をお迎えして、コミュニティ通訳についてお話を伺いました。

日本に住んでいる外国の方が病院や役所に行った時、まず障害になるのが言葉の壁です。日本滞在が長ければ、日常生活に必要な日本語は大丈夫かもしれません。しかし、医療やお役所の言葉には、日本人にとっても馴染みのないものがあります。そんな時に大きな力になっているのがコミュニティ通訳です。

通訳で大事なことは単に「言葉」を訳すのではなく、「意味」を伝えること。時には辞書に載っている訳が最適とは限らず、通訳・翻訳にはトレーニングが必要とも話されていました。

また現状では、コミュニティ通訳に対する病院や役所の認識・評価が十分でないため対価が得られず、無償ボランティアに頼ら



講師の吉富氏

ざるを得ない場合もあります。実際のコミュニティ通訳・翻訳の活動を通じて実績を示しながら、必要性を認識してもらっていくことが大切です。医療の場合なら、患者から病状を十分に聞き取り、診断結果や治療の方法を丁寧に説明したりするには、患者だけでなく医師にとっても通訳の存在が重要なはず。体の不自由な方が病院へ行けば、車椅子や介助のサポートがあるように、言葉の不自由な方にも通訳などのサポートがあるのが当然となれば、コミュニティ通訳・翻訳への理解が得られ活動が広がり、社会は日本語が不自由な方にもさらに優しくなれそうです。

編  
集  
後  
記

いよいよカウントダウンが始まりました。何のことかって?この KIFA リポートの表紙をご覧ください。そうなんです。このリポートが99号。次号が創刊100号にあたります。かなり間延びのしたカウントダウンですが。(笑)

KIFA リポートは、年4回発行する季刊誌ですので、創刊号発行から25年たつということになります。KIFA リポートも25年の間に、モノクロのリポートから始まり、印刷業者さんと何度も打ち合わせを行っていた時代からフルカラー、ネット印刷の時代へ様変わりしてきました。その間には、河内長野に住まれる外国の方もどんどん増え、多文化が身近なものになってきています。KIFAの目的のひとつでもあり、これからますます必要になってくる「多文化共生」の実現に、このリポートが少しでも役立つように気を引き締めなおして取り組んでいきたいと思っています。

isshie

無料  
メールマガジン  
配信中!

KIFAの楽しいイベントや情報を、いち早くお知らせします。お申し込みは、事務局または、KIFAホームページから。

<http://www.kifa-web.jp/>